

【カワラヨモギ】自生地にて観察して採種する
今後に備えて一部保護する。

自生地：徳島県鳴門市鳴門町大毛島海岸



他の海浜植物と共生している



ハマボウフウの同居している。このようにハマボウフウとカワラヨモギがよくひっついて生えていることが多い。



護岸補修工事が始まっており、砂が高さ1mほど無くなり、ハマボウフウの群生が見えなくなっている。絶滅危惧種である。



冬・年明けの状態、枯れている



穂を拡大する



穂は小さな花が集まったもの



心配していた通りに海岸に変化があったのでこの保護しておいた株を増殖して返す予定。



◆科研報告別紙 その他種子

【赤シソ】試験栽培して採種する。

徳島県での栽培例がある。薬用としてではなく、ごはんの「ふりかけ」用の原料として契約栽培されている。上部を機械で刈り取りを数回行い、J Aの加工場で塩漬けしてから出荷する。種は契約先が指定する品種であり、送られてくる。



種子が入っている穂



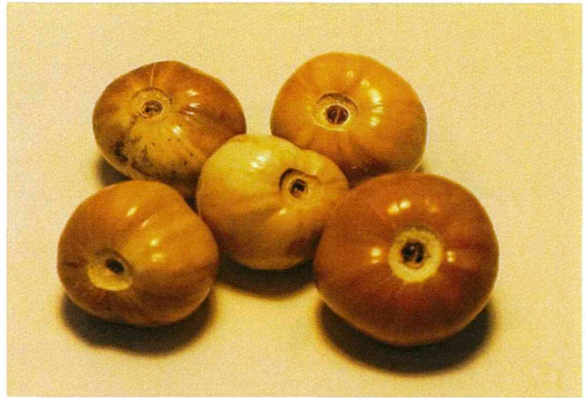
種子



大きさは約1mm強



【ジュズ玉の種子】入手したものを観察する



【クコ】苗を作る。

国産の実はいくつと苦味があるというので薬局で輸入物の実が大きくて甘味が強いのを確認して播種した。普通に播いても発芽しないので、冷蔵庫で1週間ほど冷蔵処理してからピート板に播種して発芽したものをセルトレイ移植して、ビニールポットで育てた。

・セルトレイに移植する



・ビニールポットに再移植して育てる



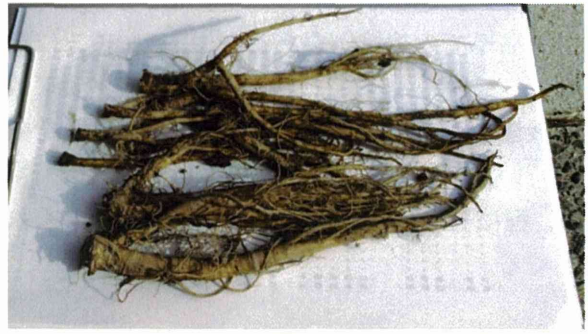
【クララの種子】 入手したものを観察する。



【ツリガネニンジン】



【たんぽぽの根】 自生する西洋タンポポを掘り
取って洗浄・乾燥する。



洗浄して



乾燥させた

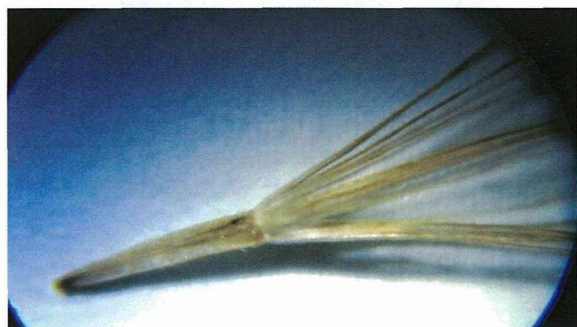
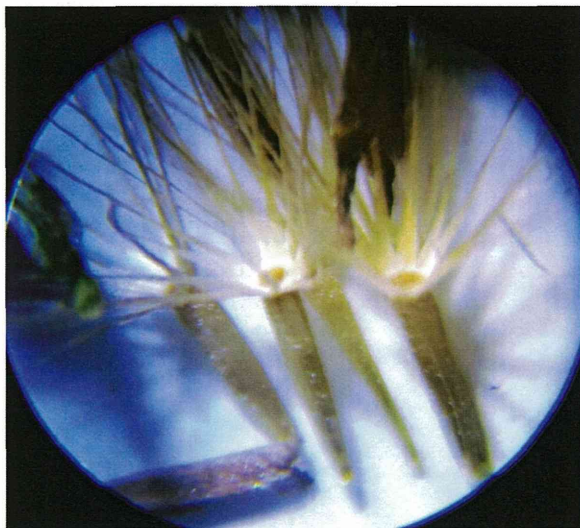


※大阪の老舗のお茶さんから、在庫は無いかとの問い合わせがあったが、どのように調整すればいいのかと、尋ねたが教えてはくれなかった。

【ステビア】苗から試験栽培して採種する。
栽培し易い。放っておいても平気だった。
葉は生のまま食べるとすごく甘味を感じた。



種子を実体顕微鏡で観た



【トウオオバコ】試験栽培して採種する。
普通に見るオオバコからは想像を超える大き
さになった。



搭は高く、40cm～60cm



こんな実が着き



中にはたくさんの果実がはいっていた。
この小さな実に薬効があるのか。



【ショウガ】試験栽培して根を採る。
出来は良くなかった。



生育が良くなかったのは度重なる冠水と日陰
を作らなかったし、土作りが悪かったのか。



【チョウセンニンジン】入手したものを観察。
種子は、福島県大沼郡会津美里町産のもの



実際は写真よりも白っぽかった。



割って、殻から実を取り出す。



このような実であった

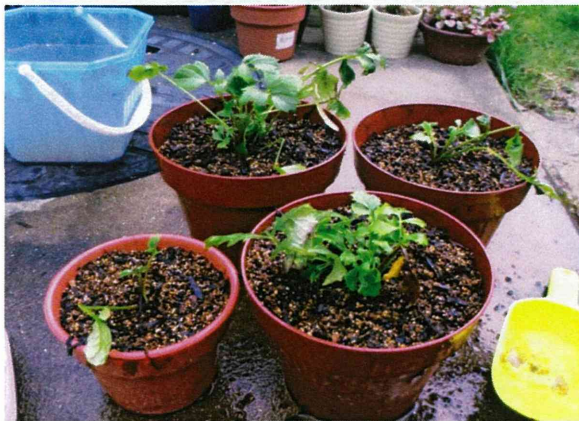


※いっしょにやらないかと誘われる。

【カノコソウ】 苗を入手して試験栽培する。
根には薬を思ふ芳香がする。



株分けして鉢に植え替える



県内では標高1700mぐらいに自生しているというが、高山植物であり絶滅危惧種である。平地での栽培は難しそう。

【オトギリソウ】 芽挿しする。

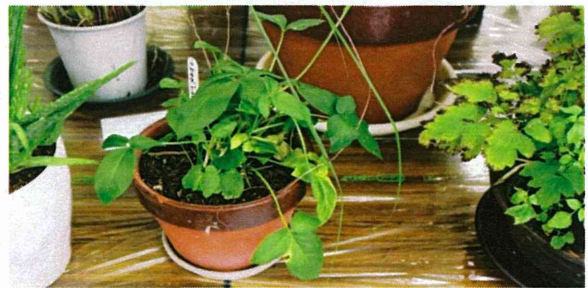


時期が遅くて、結果的には花芽しか出て来なくて失敗だった。オトギリソウ自体の挿芽は容易と思われたが、時期を逃すとダメである。

【マオウ】 株を入手して株分け増殖を試みる。
徳島県薬草協会の仲間から入手した



【カラスビシャク】 県の果樹試験場にある



【アミガサユリ】 むかごから目が出た



25cm程に育ったが、途中で突然枯れた



【ガマの穂】 鳴門市に自生するものを観察。



【ワタヨモギ】 観察と保護

絶滅危惧種。沖縄と徳島県鳴門市にしか現存しないという。葉の裏に毛が多いのでモグサの原料となると聞いた。滋賀県の業者から一度乾燥ヨモギが欲しいとの問い合わせがあった。



【ナタマメ】 試験栽培して種を採取する。
花を着けて



花を拡大、マメの花だった。



少し早目に収穫する。遅くなると莢が硬くて手に負えなくなる。そして莢を干す。



実を干す



※徳島には40年ほど前までは、福神漬けの原料として栽培していた歴史があった。
現在では一部に残っていて、食用としている地域もある。

【チョウセンゴミシの実生増殖における種子の砂揉み試験】

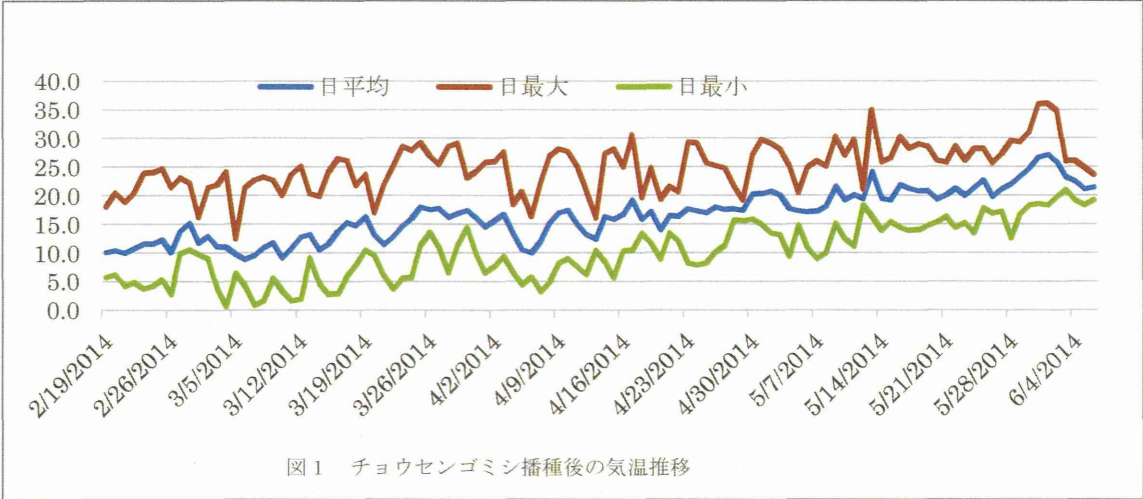


図1 チョウセンゴミシ播種後の気温推移

表1 チョウセンゴミシ種子の砂揉み時間と発芽率の推移				
試験区 (砂揉み 時間)	調査日(播種後日数)			
	5月13日 (83日)		6月6日 (107日)	
	発芽数	発芽率	発芽数	発芽率
30秒	2	7.4%	4	14.8%
1分	5	18.5%	5	18.5%
3分	2	7.4%	2	7.4%
15分	5	18.5%	6	22.2%
皮むき	7(1)	25.9%	7(2)	25.9%
無処理	3	11.1%	4	14.8%
播種日は2014年2月19日、播種粒数は各区27粒				
発芽は、緑色の子葉が開いたものをカウントした				
発芽数の()内は、うち生育不良株数				



図4 播種後90日。左から30秒、1分、3分、15分、皮むき、無処理区



【根挿しセルトレイ育苗によるフキの根茎採取栽培】

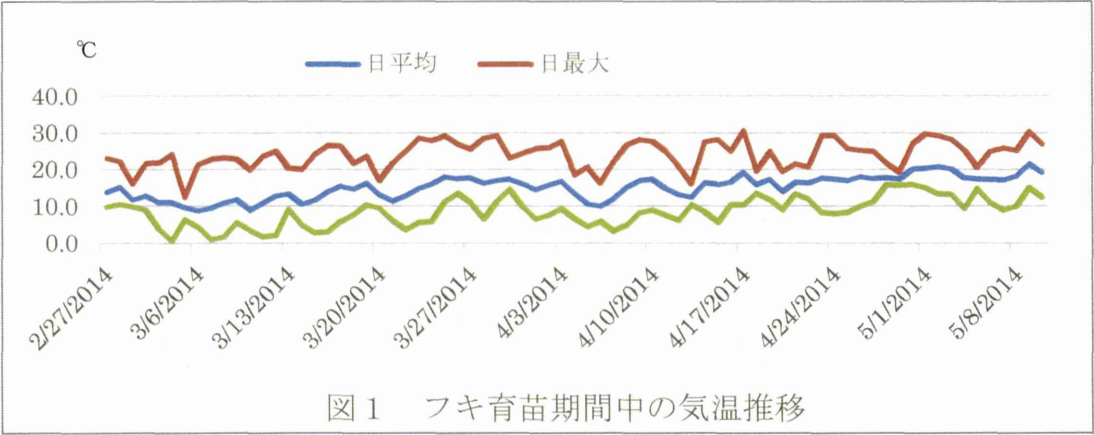


図 2 根挿し育苗中期のセル苗



図 3 定植直前のセル苗根鉢の状況



図 4 定植66日後（2014年7月15日）



図 5 定植214日後（2014年12月10日）



図 6 ふきのとう



図 7～8 掘り上げ洗浄した根株

表 1 フキ株収穫調査結果

平均 1 株重量	うち地下茎重量	同本数	うちふきのとう重量	同個数
313 g	137 g	16本	57g	6. 3個

【野生ゲンノショウコから採種する】

表1 ゲンノショウコ採種作業		表2 乾燥調製後の種子量		表3 種子の大きさ	
項目	内容	項目	内容	項目	内容
採種年月日	2014年10月21日	容積	2.1 ml	長径	15.9 mm
作業人員	4名（成人男3，女1）	重量	1.56 g	短径	11.4 mm
作業時間	40分	粒数	523 粒	平均粒径	13.6 mm

表4 10a 定植用苗作成に必要な種子を採種するには	
項目	内容
種子量	21.3 g
必要時間	36.4 時間／人

10a当たり4,000株定植、予備苗+25%、発芽率70%と仮定



図1 現地採種調査の様子

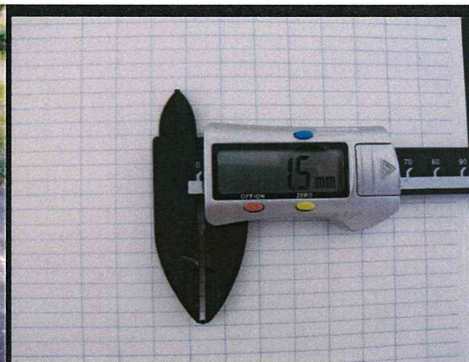


図2 大きい種子の直径

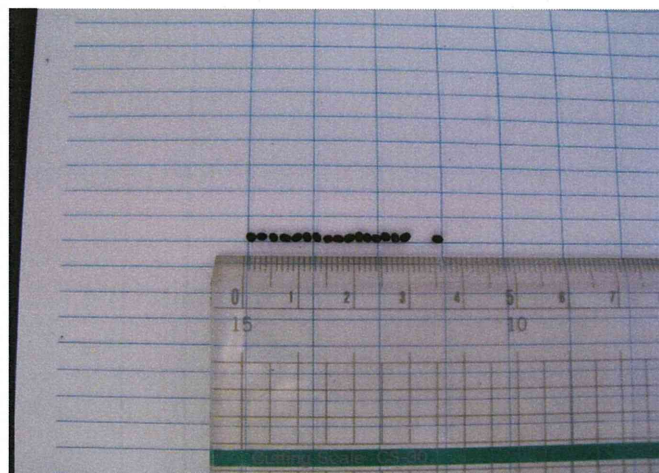


図3 ゲンノショウコ種子



図4～5 ゲンノショウコ播種と発芽（試験中）